



常行鈴菜さん（日吉中）、優秀賞を受賞

◎愛媛の未来をひらく少年主張大会

愛媛県教育委員会などが主催する「愛媛の未来をひらく少年の主張大会」が9月6日、松山市の愛媛県生涯学習センターで開催されました。本大会には、地域社会などでの友人や仲間との交流をテーマに、県内15の中学校から1,012人が作品を応募。予選審査を勝ち抜いた10人が壇上で発表し、常行鈴菜さん（日吉中学校3年）の「つなげたい心」が見事優秀賞（最優秀賞を除く上位3人）に輝きました。受賞作品を紹介します。

つなげたい心

ある盲導犬の生涯。主人であるその人の傍らで、優しい目をして、従順に、まるでいたわるかのように寄り添う一匹の盲導犬。彼らはおよそ十年余り、常にパートナーと共に生きていく。生まれてからすくなく、パピーウォーカーの家族に預けられて、愛情一杯に育てられ、盲導犬としての適性をはかられ、特別の訓練を受けて適性と認められた犬だけが盲導犬となることのできる。それが、「犬たち」ととって幸せなことなのか、不幸なことなのか。番組を見ていくうちに、それはおそらく彼らにとつて、幸せなことなのだろうと思えたし、おそらく、ハーネスでつながっているだけではなく、私たちの目には見えない確かな絆で、強く結びついていっているのだとも思いました。

目を閉じた瞬間に、目の前が真っ暗になり、立つているだけで精一杯です。目を閉じたまま、しばらく沈黙。耳の神経に全てを集中させている自分。周りに友達がいるのかわからないのかさえ、自信がなくなりました。友達がリードしてくれて教室から廊下、階段を下りて外に出ました。何かにつつかりそうになつたり、いつもは駆け下りる階段の一段一段を、足先で探りながら慎重に下りていきま

す。友達が手を引いていてくれると分かっていても、不安で、なかなか一歩が踏み出せません。補助されている人と補助している人の間に、確かな信頼関係がない限り、住み慣れた家の中ですらともかく、段差や自動車など、ただでさえ危険があふれている家の外に出ていくことなど、考えられないと思いました。

も強く心に残っているのが、バリアフリーお遍路倶楽部主催のお遍路ツアーに参加させていただいたことです。普段なかなか外出できないという障害者の方たちが、四国八十八カ所のお遍路道を、バスでお参りしようというもので、私たちは夏休みを利用して、ボランティアとして参加しました。当然知らない方たちばかりで、最初はどうしていいのか分からずに、固まっていたのですが、参加してしまつたのですが、笑顔で話している皆さんが笑顔で話し掛けてくださるので、こちらも自然と笑顔になることができました。移動やトイレ休憩での車椅子の補助、納め札やお賽銭を代わりに納めるなど、私たちにできる最低限のことをお手伝いするといふものでした。なかなか一人では外出できない方たちにとつて、このツアーは、毎回、楽しみにしていることのひとつということでした。

参加して何より良かったと思つたことは、皆さんが笑顔で接してくださつたこと、そして、何をやるにしても常に「ありがとう」と声を掛けてくださつたことです。おかげで、私たちの不安や緊張はすぐになくなりました。そして、「こんな些細なことに感謝されて、いいのかなあ」と思